

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ROTARY SERVING HUMANITY

～人類に奉仕するロータリー～

2016-2017年度 国際ロータリー会長 ジョンF. ジャーム



2016-2017年度

会長:高木一平 幹事: 柏木博喜 クラブ会報委員長:加藤智弘

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンゴヤキャッスル 名古屋西区樋の町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2016 July 27

2016～2017年度方針  
ロータリー 清く 正しく 面白く

NO.4

## 例会報告

●第2137回例会 平成28年7月27日(水)曇

●ロータリーソング 四つのテスト

●出席報告 会員 103 (92) 名中 出席69名

出席率75.00% 修正出席率81.25%  
(7月13日分)

## ニコボックス

「昨日、次女に待望の初孫が生まれました。元気な男の子でした。」 宮下幸二郎君

「久しぶりの出席です。高木会長とスタッフの皆様、ロータリーを楽しんで下さい。」 谷 喜久郎君

「イスラムの過激派から身を守る“お守り”を作りました。教われたときは、このカードを見せましょう。それでも撃たれたら、よほど平素の行いが悪かったと諦め成仏しましょう。」 鷲塚貞長君

「7月24日のゴルフワンの会にて、昨年度の取り戦にて勝利致しました、ご一緒頂きました榎野プロ、亀井様、小林様ありがとうございました。」 間地 寛君

「先日のRCゴルフで優勝しました。ハンディが沢山あったのと上手な榎野さん飛ばし屋の間地さん楽しい亀井さんと、このメンバーに恵まれました。」 小林利之君

本日のニコボックス	5件	25,000円
累 計	17件	200,000円

## 柏木博喜幹事報告

▽8月のロータリーレート

8月のロータリーレートは、1ドル102円です。

▽当クラブ行事予定

・7月27日(水) 本日例会終了後、クラブアッセンブリーを開催致します。

※理事及び役員、各委員長のご出席をお願い致します。委員長ご欠席の場合は代理の方のご出席をお願い致します。

クラブアッセンブリー終了後、理事会を開催致します。

※理事及び役員のご出席をお願い致します。

・8月17日(水) 規定休日です。

※クラブ計画書が出来上がりましたので、お持ち帰りください。

※本日、名古屋和合ロータリークラブホームページのIDとパスワードを配布しております。

※上期会費のお振込は、今月末までをお願い致します。

## 高木一平会長挨拶

### “宮本武蔵の最終章”

小説を読んでいるとたまに、この言葉に出逢って本当

に良かったと思うことがあります。これらの言葉は普段は私の心の奥底にあり、時々思い出したように輝きを取り戻しながら浮上して、落ち込む私を救ってくれます。

私はこれまで大した苦勞はしていませんが、それでも駆け出しの医師、研究者としてもがいていた頃は、司馬遼太郎、山本周五郎、藤沢周平、吉川英治等の一連の歴史小説が未熟な自分への精神的栄養剤でした。特に吉川英治の「宮本武蔵」は戦前の書で言葉も古く、読むのに相当時間がかかりましたが、究極のストイシズムに強い憧れを覚ええました。誰しも自分にはないものを求めるものです。

武蔵はご承知のように若い頃は大変な乱暴者でしたが、剣の修行を重ね、幾多の真剣勝負を経て、天下無双の兵法者となります。しかし武蔵の偉いところは、ただ強いだけでは人間として不完全であることを悟ったということです。やがて武蔵は剣禅一如という誰も到達し得なかつた境地に達します。後世に伝わる武蔵の水墨画などは彼の悟りの高さをよく表しています。

最後に武蔵は終生のライバル、佐々木小次郎との決闘に臨みます。舟島での勝負は武蔵が權を削って作った木刀で小次郎の脳天を打ち据え、勝利を得たのですが、この時周囲の人達はとどめを刺さなかつた武蔵に対し「武蔵といえどもその時は狼狽して逃げ帰ったのだ」と批判します。しかし真実は武蔵がまだ少し息がある小次郎には手当によっては一命を取り留める可能性があるかと判断したということでした。

これを受けて吉川英治は最後の文章を認めて、いよいよ「宮本武蔵」完となります。以下その文章をお示しします。これが私の心の奥底にいつも沈んでいて、時々浮上してくる至高の名文です。

「波騒は世の常である。波にまかせて、泳ぎ上手に、雑魚は歌い、雑魚は踊る。けれど、誰か知ろう、百尺下の水の心を。水の深さを。」

## 卓 話

### カンボジア おもしろ話

会員 加藤 重和君

思い起こせば6年前、2010年の10月に、初めてカンボジアの地に足を踏み入れました。

それから数えて、先日の5月まで、すでに、26回も、カンボジア訪問しております。

おかげさまで、現地では、すっかり有名になってしまって、政府の関係者から、カンボジアンネームまでもらっております。(ソック・プラムプライ)

現地の舎弟も、いたるところに存在し、今や、各地に1000人くらい

います。

私の活動拠点は、カンボジアの最高学府で、PPにある、「王立プノンペン大学」で、私自身、現在、ここで、講義を



持っています。

出入りしているのは、「外国語学部、日本語学科」ですが、私が、ここの学生相手にやっているのは、日本語のレッスンではなく、日本人なら、誰でも知っている、日常的な基礎知識です。

皆様の中には、これから、東南アジアへの進出をお考えの方も、おられると思いますが、今日の私の話が、行かないきゃわからない現地情報として、少しでもお役にたてたら幸いです。

彼らのほとんどは、足し算はできても、引き算の概念を持たないため、計画と言うモノが立てられず、たとえば、予算計画も、生産計画も、事業計画も出納帳も作れません。

彼らは、まさに、「今」に生きており、先の事までは、考えないのが普通です。

カンボジアは、人口1500万人、国土面積は、日本の半分の、18万㎡ですが、米の生産量は、日本と同じ900万トンで、穀物自給率は、120%を超えています。

このため、彼らは、たいして頑張らなくても、生きて行く事が出来るので、2次産業、3次産業は、いつまでたっても発展しないわけです。

彼らは、あとから入った予定を優先しますので、せっかく後日の約束を取り交わしても、守られることは、ほとんどありません。

また、彼らとの約束の時間は、けして守られません。(一部の、日本的カンボジア人は、大丈夫)

たとえば、8時集合と言うのは、彼らにとっては、8時～8時59分までの事を指します。

とにかく、日本の常識は、まったく通用しないところで、私も、最初の頃は、「なんだ、こいつら」と言う思いが強かったものの、彼らには、まったく悪気はありません。私にとっては、これは、とても良い経験をさせてもらっているわけでして、ここで慣れてしまうと、日本国内に戻って、何が起ころうと、たいして驚かないようになります。

現在の、カンボジアの問題点は、教育と医療であり、特に、教育は、全ての原点だと確信しています。

ポルポト時代に、教師や知識人をすべて失ってしまったこの国には、圧倒的に基礎教育が不足しており、表面的な体裁が整うのにあと50年、心理的・精神的に、グローバルなレベルに達するには、まだ、100年くらいかかるでしょう。

私のやっている事は、教育支援なんですけど、これは、ハード的に学校を建てる事が目的ではなく、目的は、そこでの教育の中身であり、今の子供たちに、まずは、教育と言うものの大切さを教え込むことにあります。

その、第二世代の子供たちが、小学校に上がる時、初めて、今の教育支援が効果を出すものと信じております。

さて、この小学生たちに、誰が教育を施すかと言うと、これが、今、私がかわいがっている大学生たちで、この学生たちの拠点が、プノンペン大学の、日本語学科なのです。

カンボジア全土には、約3千人、PPには、現在、500人くらいの日本人が滞在しており、その中には、海外事業での成功を夢見る、いわゆる、自称、青年実業家の連中も大勢います。

ラーメン屋、焼き鳥屋、居酒屋など、多くの日本人若手経営者のお店がありますが、たいしての場合、半年～1年で破綻し、次々に入れ替わって行きます。

この原因は、少々、日本語が達者な現地スタッフを店の責任者にして、運営やマネジメントまで任せてしまうところにあり、先ほどの話にあったような、カンボジア人の特性を知らないまま、日本の常識を持ち込むからであり、早々に、預けた資金を全部使い切られて、そこですべてが止まります。彼らが悪いと言うより、引き算ができない事を、知らない日本人の方に、責任があります。

またさらに、物価水準が5倍ほど違うところを意識せずに、日本の価格帯を、そのまま持ち込んで、失敗するケースも多々あります。さて、話は変わりますが、私は、カンボジアで、日本語を学習する連中に対して、何とか、日本人

の考え方や、思考手順を教えることが出来ないものかと考え、大学の構内に、日本語学科の専用校舎を建設する事を決意したのが、昨年春です。

プノンペン大学に、日本語学科が創立されたのが、今から10年前で、ちょうど10周年記念にもなります。

ここに、専用の新校舎ビルを建設し、その中は、日本であり、そこに、まさに、日本の環境を再現する事で、彼らの意識改革を促し、より、世界に通用する感覚を身に付けてもらえたらと言う、強い願望を抱いたものです。

この日本語学科の新校舎は、昨年8月に起工式を行い、今年5月26日に、竣工しました。

今、心配しているのは、この校舎が、他国など、第三者に売却されてしまう事です。

彼らは、「もらったもの」⇒「自分の物」⇒「売っても良い」と、普通に考えるフシがあります。現在の、プノンペン大学学長は、私の親友ですが、この学校が、いわゆる国立である事に問題があり、選挙のタイミングで、学長が変わります。

もちろん、誓約書があつて、この校舎の所有者が、私の会社「GIC」であること、そして使用者が、「プノンペン大学日本語学科」である事が書かれています。

さらに、大学は、この校舎を、当初定められた目的以外に使用しない事や、改築、増築をしないことなどです。

しかし、数年後に、学長が交代した時、これが無効になってしまう懸念があり、それを、ヘッジするために考えたのが、この募金活動です。

募金の目的は、設備の充実と言う事にしておりますが、こっちはメインではなく、本当の目的は、そのあとにありますように、募金者全員の名前を書き込んだ大きなプレートを、校舎の壁面に取り付ける事です。

これにより、多くの監視の目が存在する事になって、たぶん、売りにくくなるであろうと言う、作戦です。

校舎の設備として、エアコン、プロジェクター、音響など、まだまだこれから準備しなければならないものも、たくさんあります。

皆様、どうぞよろしく願いいたします、と言う事で、本日の卓話を終わらせていただきます。

## ●第1回理事会(平成28年7月27日(水)クラブ協議会終了後、ウェスティンナゴヤキャッスル)

- ・2019～20年度ガバナー候補推薦の件
- ・諮問委員会の件  
(2018～19年度名古屋和合R C会長選任)
- ・W F F 例会変更の件 (10/19(水)→10/22(土))
- ・その他

## ●8月度誕生日祝福

会 員	ご夫人
亀谷喜敬 君(8月1日)	浅野 洋 夫人(8月2日)
小栗正章 君(8月7日)	丸山弘昭 夫人(8月3日)
桑山卓也 君(8月8日)	小林利之 夫人(8月4日)
浅野 洋 君(8月13日)	中浜明光 夫人(8月7日)
本多國泰 君(8月15日)	久保哲政 夫人(8月11日)
花橋日出夫 君(8月21日)	福田哲三 夫人(8月19日)
今村孝治 君(8月21日)	平木聖三 夫人(8月23日)
山本秀樹 君(8月21日)	内閣三好 夫人(8月23日)
山村博伸 君(8月22日)	國分孝雄 夫人(8月26日)
高田朋太郎 君(8月25日)	鷲塚貞長 夫人(8月29日)
小林利之 君(8月28日)	
久保哲政 君(8月30日)	

例会	月日	今後の予定
第2139回	8.10	原 史彦氏 「名古屋城築城物語」
	8.17	規定休日により休会

○このウィクリーは再生紙を使用しております。